

令和4年度学校評価・関係者評価 報告書

加西市立加西中学校

学校教育目標

「自ら学び続ける、心豊かな生徒の育成」
～道徳を核にした 豊かな学びの創造～

本年度の重点

1. 組織運営
2. 「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」の育成と定着
3. 学びの意義の確立
4. 「教職員の資質」の向上
5. 「伝統文化」の継承と「地域愛」の育成

総合的な自己評価

昨年度までと同様に、教師個人の自己評価と学校全体の学校評価の2段階で評価を行った。昨年度との比較では、共に良好な回答項目が増えており、特に、学校全体の評価では半分以上の項目で「よくできた」のA評価となった。順調な組織運営に加え、教師自身が学校に対する信頼感を高めている証拠と見ることができる。

項目別では、道徳教育や生徒指導において高評価が目立つ。道徳教育ではこれまでの研究の積み上げが発揮されていること、生徒指導では組織的な対応が定着しつつあることが評価に結びついていると考える。

一方で、STEAM教育などの新たな教育目標への取組や、人権教育、業務改善への取組については課題が残っていると反省している。

学校評価の方法についての学校関係者評価

昨年度までと同様に、個人の自己評価と学校全体の学校評価の2段階で評価を行っている緻密さは素晴らしい。また、STEAM教育等の新たな取組や教職員の減少に伴い、評価項目の一部内容を改良している点など、課題を洗い出し次年度への重点努力事項を精査しようとする学校の姿勢がよく顕れている。また、昨年度に比べ、肯定的な評価が増えている点などは、昨年度の課題を上手く修正できている証拠とみている。

総合的な学校関係者評価

自己評価と学校評価のいずれにおいても「A」評価が多くなったことは、適正な評価であると感じている。このことは、オープンスクールや参観日、学校HP等から十分に察することができた。

特に、道徳教育や生徒指導に関する取組の学校評価が高いことは、中学校教育の不易であり基盤である部分において、充実した取組になっていることが大変頼もしい。

課題である不登校対策については、次年度からの新たな市の施策も効果的に活用しながら改善が図られることを期待している。

また、教職員の「多忙さ」が、様々な面でマイナス評価につながっていないか、教職員一人一人が改めて自己点検してはどうかと思う。

				評価項目ごとの学校関係者評価
分野	評価項目・取組内容	評価	学校の取組状況・課題・改善の方策	自己評価結果および改善方策の評価
学 習 指 導	基礎的・基本的な知識・技能の習得に努めている。	B+	○各教科の特性を生かして、基本的な知識の習得に向けた授業が行われている。 ○各教科でどのような工夫した取組がなされているのか、情報交換の機会があれば良い。 ○1学年の授業では、忘れ物（持ち物・宿題・提出物など）が多いが、継続して粘り強く指導して改善を図っている。 ○教師は始業のチャイム前に教室へ行き、生徒の教科係による忘れ物調べ等を行うことで、学習規律が確立されている。 ○Chromebook を使って、効果的な学習展開や生徒が主体となった班活動が増えてきている。	・先生方のまじめさ誠実さがよく分かる。 ・誠実に職務に取り組むゆえの「時間不足」があるように感じる。情報交換は、若い教師が増えている近年の状況では、とても大切だと思うので、積極的にその時間を生み出せる工夫をしてもらいたい。 ・学習規律については、子供たちが当たり前のように守れているようなので、とても安心している。
	思考力・判断力・表現力の育成に努めている。			
	学習規律（時間・忘れ物・宿題・自主的発表）を確立し、学習に向かう姿勢や気持ちをつくらせている。			
	学習効果を上げるため、個別やグループ別指導等、効果的な指導形態の工夫・改善を行っている。			

学 習 指 導	毎時の授業のねらいを明確にするとともに、板書、発問、ワークシート等に工夫・改善を行っている。	B+	○授業の「めあて」を提示することは定着しているが、「振り返りの時間」が確保されず、不十分なところがある。 ○各教科の特性を生かして、基本的な知識の習得に向けた授業が行われている。 ○各教科でどのような工夫した取組がなされているのか、情報交換の機会があれば良い。 ○1時間の授業の中で、何を学んだかが分かる板書計画が工夫されているので、生徒が復習するときに知識が定着しやすくなっている。 ○英語と数学の少人数授業が、3年生でしか行えていないので、1・2年生の低学力の生徒に対しての支援が十分でないのが残念である。 ○教科横断的なSTEAM教育への発展には至っていないが、各教科内において協働・探究的な学習指導への取組は行えた。STEAM教育の初歩的な展開から校内研修を行った。 ○学期末に行っている生徒による学習アンケートを各教科で考察し、自らの授業の振り返りを行うことが出来ている。	・これまで普通に行ってきた英語と数学の少人数授業が、教職員数の減によって実施が難しくなっている点が残念である。学校だけの努力では改善できない部分であるため、工夫を凝らした授業改善によって子供らの学力が維持されることを願っている。 ・オープンスクール中に見せてもらった3年生の英語の授業は、とても面白そうで大変良かった。 ・保護者として、授業や教科にどれだけ興味を持てるかが、子供たちの勉強の成果につながっているのではないかと感じる。 ・ICTの活用は、もはや珍しくないのだろうが、実際にどのようなことが授業でなされているのか興味がある。 ・評価としては悪くないものの、他の分野では「A」評価が多いこともあり、目に見えて学校評価が高まるような取組も期待したい。
	生徒の個性や到達状況などを把握し、個に応じた指導により「わかる」「できる」を生徒が実感できる授業づくりに努めている。			
	各教科の特性を踏まえ、関わり学び合う学習、体験的・問題解決的学習を設定し、生徒が主体的に取り組む授業を展開している。			
	自らの授業を定期的に振り返り、STEAM教育への取組を含め、工夫・改善を加えている。			
道 徳 ・ 人 権 教 育	自他の生命を尊重し、人間的ふれあいを深め、思いやりのもてる豊かな心の育成に努めている。	A	○道徳教育を核として、生徒の豊かな心の育成に向けて、教師全体が意識を高く持っている。 ○道徳の授業では、毎回授業者が分析シートを作成し、学年会で検討を行うことで、全教師で生徒の道徳性育成に努めることができています。 ○毎週の道徳の教材分析シートに全教師で取り組む姿勢は素晴らしい。ただ、やはり学級担任の負担が大きくなっていることは気になる。 ○道徳教育への取組はすでに軌道にのっているが、人権教育に対しては、具体的な見える取組が行えていない。	・担任の先生だけでなく、副担任の先生も道徳の授業をしていることは大変素晴らしいと思う。いろいろな大人（教職員）に接し、色々な考え方に触れてもらいたい。そのため、人権教育の取組も含めて、保護者に何らかの役割を振ってもらうことも子どもの成長には意義があると思う。 ・人権教育への取組は大人にとっても難しいが、PTA講演会なども活用して保護者も一緒に学びたい。
	道徳教育年間指導計画に基づき教材・資料を充実させるとともに、対話による授業力を向上させ、道徳的心情と道徳的判断力の育成に努めている。			
	自他の違いを理解し、違いを認め支え合い、共によりよい生き方に向かう姿勢を醸成している。			
	人権教育年間指導計画に基づいた指導を行い、身近な問題に気づき、考えることで、人権感覚を養っている。			
特 教 別 育 支 援	支援が必要な生徒の実態把握と教育的ニーズの理解をし、個に応じた適切な支援・指導を行っている。	B+	○巡回指導による通級教室は、個別の支援が必要な生徒に成果が上がっている。学級担任との連携もスムーズに行っており、次年度も継続してもらいたい。 ○通常学級に在籍する支援の必要な生徒に対して、それぞれの教師が適切に関わろうとしているが、互いの情報交換がもう少しあってもいいと感じる。	・通級指導という取組は初めて知った。すでに広く行われていると聞き、勉強になった。生徒にとって効果があるのであれば、今後も是非続けてもらいたい。 ・特別支援学級の担任の先生だけが大変な思いをしないよう、協力体制が必要と考える。

特別活動・総合学習・その他	好ましい人間関係とモラルのある集団生活が営まれる学級・学年づくりがすすめられている。	A	○3ヶ月計画は立案されているが、総合的な学習の時間については曖昧なところも多く、もっと明確な方針と具体的な計画が必要である。 ○事前事後指導に力を入れており、つながりのある指導が各行事や特活などで行われている。 ○年々、人間関係づくりの下手な生徒が増えてきているように感じる。学活などの時間で、系統的なスキルトレーニングが必要ではないかと思っている。 ○部活動では、生徒は様々な事を感じ、学んでいると思うが、とことん追求する中での学びが不足しているのかもしれない。 ○若手教員が中心となって、部活動は全体的に力が入っていると感じる。 ○教師の非認知能力育成シートは、自分の取組を振り返る良い機会にもなっていると思うので、今後も続けていくべきである。ただ、もう少し生徒自身に非認知能力の価値や意義を考えさせる機会が必要と感じている。	・体育大会や音楽祭では、子供たちが実に生き生きと取り組んでいる様子に感激したことを覚えている。授業中もオープンスクールで見た表情は真剣であり、中学生らしい凛々しさも感じることができた。勉強ばかりでなく、主体性や自律心も育っているように感じている。 ・SNS等の広がりによって、子どもたちの人現関係作りは昔とは変わってきている。保護者としては心配な面がある一方で、子どもたちなりの方法は時代に合っているのかもしれないと感じる。 ・部活動は転換期であるようだが、子ども達はもちろん、先生たちにとってもメリットの多い方向になれば良いと思う。
	生徒の主体的・協働的活動を支援し、生徒主体の学校づくりを通して、創造的な力の育成に努めている。			
	事前・事後指導を充実させ、意図的で計画的な特別活動や総合学習により、基礎モラル力と非認知能力の効果的な育成が進められている。			
	部活動の意義を理解し、達成感や満足感の体験を通して非認知能力の育成に努めている。			
生徒指導	基本的生活習慣の確立、規範意識の育成、基礎モラル力の向上に努めている。	A	○生徒が自分たちで考える機会を設定し、実践部活動などを通して規範意識の育成に努めることが出来ている。 ○学年担当を中心に、そして、毎週行っている学年会や生徒指導小委員会を通じて、問題行動への組織的な対応が出来ている。 ○不登校生徒への対応については、総合教育センターやSC、SSWとの連携はよくとれおり、ケースに応じた適切な支援が行えている。 ○「優しいけれど甘くない、厳しいけれど冷たくない」対応を、教師全員が高い意識をもって取り組む必要がある。 ○新たな不登校生を出さないためにも、学校に来ると楽しいことがある、学校は行く価値のある場所だと思わせる努力や取組が必要である。	・高い評価となっていることに安心する。子ども達が安心して学校生活を送ることができている一番の原因ではないだろうか。 ・不登校生徒の増加はやはり心配だ。しかし、周りの子どもたちは学校に來ていない子に関心を持っている様子なので、改善のために周りの子どもたちにもう少し負担を掛けても良いのではないかと思う。 ・高評価の要因として、組織的対応の定着やSCやSSWの積極的活用があるようだが、校長先生の強いリーダーシップが何より効果を発揮していると思う。
	生徒の実態をふまえ、厳しさや温かさのある生徒指導を実践し、自ら考え、判断し、行動する態度の育成に努めている。			
	円滑な報告・連絡・相談により職員の共通理解を図り、問題行動等への誠実で迅速な組織的対応が行われている。			
	生徒理解に努め、生徒や保護者が安心して相談できるようにしている。			
キャリア教育・進路指導	不登校生に対し、家庭や関係機関(SC・SSW・総合教育センター等)と連携を図り、職員間の共通理解がある組織的な支援が行われている。	B+	○1年生で、職業に対する興味関心を高める取組(校外活動、職業講話)が行えた。 ○トライやるウィークではこれまでと違った方法で取り組んだが、生徒は意欲的で成果はあったように感じる。ただし、やはり従来の5日間を職場体験中心のトライやるウィークが望ましい。	・1年生での新たな取組は斬新でよいと思う。次年度以降も続けてもらいたい。 ・トライやるウィークは、やはり5日間の職場体験がよいと思う。ただ、今年度の取り組み方も、工夫によっては残せる部分もあると思う。
	学年に応じた進路指導計画に基づき、社会人としての自立に向け、自己を見つめ、夢や目標をもって将来の生き方を考えるキャリア教育を推進している。			
	保護者と連携し、自らの意思と責任で生き方や進路選択ができるよう、教育相談の充実にも努めている。			

安全・防災教育	生徒の健康や安全に留意し、活動環境や活動状況を把握する等、安全対策に努めている。また、事故等の緊急時の体制を整備し、役割分担を明確にしている。	B+	○計画的な避難訓練や防災学習により、生徒達の防災意識は高まっているように感じる。 ○老朽化している施設のため、特に、毎月の教師による安全点検が大切になる。 ○定期的な登下校指導は、教師の安全意識や危機管理意識の高揚にも役立っていると思う。	・校舎の老朽化は確かに目立っている気がする。ただ、日ごろの子どもたち自身の掃除などによってきれいに保たれていることは立派だ。 ・登下校の様子はずいぶんよくなっている。先生方の指導のお陰だと思っている。
	火災、地震、社会を脅かすような事態等に対する意識を高め、迅速かつ適切な対応ができるように、防災意識や危機管理能力の向上に努めている。			
地域・家庭・社会と連携	学年・学級通信・配布物やHP・オープンスクール等により、学校の情報や教育活動の様子を家庭・地域に伝え、保護者及び地域の学校への関心を高め、理解と協力を得るように努めている。	A	○多くの学級でかなりの頻度で学級通信を発刊できている。素晴らしいと感じる反面、その時間が教材研究や生徒と直接関わる時間にしわ寄せにならないようにする必要性を感じる。 ○オープンスクールにもう少し参加者が増えて欲しい。案内方法に工夫が必要。	・保護者は学級通信を楽しみにしている。わが子だけでなく、クラスの他の子どもの様子が分かることが面白い。 ・オープンスクール同様、PTA講演会にも、もっと沢山の保護者が参加してもらえるよう、講師の選定等PTAとして協力したい。
教職員の資質向上	学校運営参画意識と貢献意欲をもち、分掌された校務を的確かつ効率的に行っている。	A	○校務分掌の負担の偏りがあるので、サポート体制をしっかりと整える必要がある。 ○校内外の研修の場が多く設定され、かつ充実しているので若手教員を中心に積極的に参加し、指導力の向上につながられているのが良い。 ○働き方改革や業務改善を言われるが、教師が行わなければならない業務は減るどころか、増えているのが現状であり、推進は困難である。 ○会議が勤務時間外に行われることはやむを得ないとはいえ、改善の余地は無いものか。 ○部活動は地域移行へ方向となってきたが、現実的に、逆に生徒指導や連携の面など、負担が増えないか心配である。 ○教職員のコンプライアンス意識は全体的に高いと思うが、危機管理意識などまだ100%とはいえない部分もあり、定期的なアンケート調査などは意義があると思う。	・少ない職員数で学校のことを全てこなしていくことは大変だと思います。協力できることは、保護者や地域に任せていければ少しは先生たちの負担減に繋がらないだろうか。もしかしたら、逆に増えてしまわないかという心配もある。部活動に限らず、よく吟味していく必要があるだろう。 ・先生たちが毎日忙しくしていることが当たり前になってしまっている。もう少し余裕があれば、もっといろんな事が出来て、子どもたちにとっても楽しい時間が増えると思う。また、先生たちのやり甲斐にもつながると思います。
	自ら校内外の研修に積極的に取り組み、教職員としての資質、実践的指導力の向上に努めている。			
	高い理想、目標をもって挑戦し続け、教職員プロとしての誇りのある指導を実践している。			
	働き方改革の意識をもち、計画的で効率の良い業務改善を図り、他の職員を気にかける協働的な職場づくりを推進している。			
	コンプライアンス意識の向上を図り、様々な危機管理意識をもった職務の遂行に努めている。			